

## 第4回説明会においていただいた主なご質問及びご意見等

長堀抽水所雨水滯水池において、爆発事故が発生したことにつきまして、市民の皆様にご迷惑をおかけしており、お詫び申し上げます。

第4回説明会でいただいた主なご質問及びご意見、並びにご質問に対する回答を次のとおりまとめました。

説明会において皆様よりいただきましたご意見等については、真摯に受け止め、今後の対応について、建設局全体としてしっかりと取り組んでまいります。引き続き、大阪市下水道行政へのご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。

### 【1. 再発防止の具体策について】

① 水温が高いときの対策は行わないのか。

滯水池から津守下水処理場に送水するときの臭気対策を講じ、汚濁物を24時間で排出できるようにします。また、排水が終わるまで新たに流入させないなど、水温に関わらずメタンガスの発生原因となる汚濁物が長期間池の中に残らないよう設備面、運用面で対策してまいります。

②万が一、建屋にメタンガスが侵入した場合には換気することだが、道路側にメタンガスを放出し、道路がメタンガスでいっぱいになるという事か。

メタンガスが危険な濃度に至る前に、屋外に排出して拡散させることになります。詳細な排気場所は今後の検討によります。

③脱臭装置や換気装置によってメタンガスを分解できるのか。

分解できません。放出して拡散させることになります。

④滯水池に溜まった水を送水するとき、上方の水から送水すると池の底付近に汚濁物が最後まで残るのではないか。

送水ポンプは池の底に設置してあるため送水は池の底から行われます。また、送水後池の底に残った汚濁物はフラッシングにより取り除きます。

⑤池の定期的な清掃はどのようなものか、人手で行うのか。

池内の点検時に、池底の清掃（ポンプまわり）を実施します。堆積物が残っていたら水洗いする等、人手で行うこともあります。

⑥傾斜板がたくさんあるが、これも洗えるのか。

水に浸かった状態の傾斜板を空気で洗浄する機能があり、この洗浄により傾斜板上の汚れが池の底に落ちます。

⑦洗浄水の水源は何を使うのか。

1回目のフラッシングには雨水を使います。1回のフラッシングでは洗いきれないことも想定し、排流渠の水を利用して複数回洗えるように対策します。

⑧施設が稼働していた時臭気がひどかった。24時間で排水できるようにすれば、また臭くなる

のでは。下水の臭いがすると爆発が起こるのではないかと不安になる。

臭気が漏れないよう滯水池周辺のマンホールを無くして圧送できるようにするとともに、圧送先の長堀抽水所正面に位置するマンホールには脱臭配管を接続して脱臭装置で吸引する、送水管には臭気を抑える薬品を注入するという対策をとります。

⑨施設の廃止や規模縮小、設備全体の見直し等の検討をしないのか。

本滯水池は合流式下水道による環境への影響を抑えるために重要な役割を担っており、廃止や規模縮小は難しいと考えています。

⑩また爆発を起こさないか、施設に対して不安を感じている。建屋が見えないように覆えないのか。

事故原因をふまえた再発防止策として、メタンガスが発生しにくい対策、建屋内へメタンガスを侵入させない対策、万が一建屋内にメタンが侵入しても滞留させない対策等、二重、三重の安全対策を講じることで、住民の皆様の不安を解消し、今回のような爆発事故が二度と起らないようにいたします。

## 【2. 説明会の運営について】

①説明会には市長、局長が出席するべきではないか。

西部方面管理事務所等、担当において責任をもって対応してまいります。

②被害者の皆様の今の状況についてなぜ最初に説明しないのか。

個別の示談交渉の内容は本市側から公にする性質のものではないためです。

③今後どのように住民の理解を得ていくか。

今後、現場の損傷状況を調査するなどして再発防止策の具体案を検討してまいります。また、しかるべき時期に住民説明会を開催し説明してまいります。

## 【3. その他】

①被害にあったマンションの建替えの時期が来た時に用途変更に協力すると約束して欲しい。

用途変更に協力するというご要望にはお応えしかねます。

②住民のみなさまの安全のためと町の美化の観点から、この施設だけではなく下水道管内の土砂等を取り除いて欲しい。

現在大阪市内には約 4,800 キロメートルの下水道管が埋設されておりますが、現在も清掃・浚渫などにより土砂・汚泥の排除を行っております。ご要望にお応えできるよう、取組を続けてまいります。